

027
270
1

蒼蕉子遠思
為之錄

全



629
290
/

愛知女子
第 11732 號
圖書

1303



文塚市



伊勢に傳ふる人々の中に四つある
茶師が其目通りの文塚を建てる
寛保^美のあやうに^美福^美あやう^美四^美を
あやうに^美碑^美名^美伝^美舟^美より^美修^美せん^美
らんと十二日伝^美果^美伝^美り^美せん^美
その他のもう^美と^美し^美の^美感^美

三

一

碑前

一人一人の顔を細く
まよ連年のすまを
備へ

二〇坊
里同

あゆみよふくまふまふまふ

少くもとと取れぬあやふふ
文器

昔はつと水鏡まふの神つた
午枕

馬あそびつと心涙めを道
西花

月あ清奪もとと更初をふたり
悦峯

うまあつとあふ顔の商人
芦風

ソレつとつ中まをたつあふの月
浩笑

あまふ湯衣りつとれを机を
緝柳

新んごれを隣りへ鳥とつとつ
雪江

鶴つとのもろまよ立白の音
其葉

わつくつと紀の俗如縁よる
女立

わの西行をふつとつとつ
花徑

梅干とる命とる 硯 巻 南紫

松林ゆき雪と椽乃足晴 川車

子成りて鳥と馬を以水泳す 三桃

名を人掃田の首白きりり 凡五

松とく照る清冷ふ天を白く 左文

柳を掃く清の月のさ 風和

とくまなく地下の掃く比喩 布及

そとく掃く如飯付 可笑

雪と掃く松と掃く神を掃く 多路

ひ新掃く松掃くも 只先

胡葱う香るかきと掃く世 素竹

席にまはハ世をい産る 己有

口ふ口口日癖とまふとまふ 叶解

大木とこふ松ゆり 水色

草推の音とゆりの音 其枹

娘り果鼓傳うたふ之キ 兩橋

姉さきうにうらなひの裁令を

扇士

りかんてん扇の栞とて金銀

停車

彩顔もよひにうらなひの裁令

芦洲

ゆききくちうらなひの裁令

扇雪

呵りあしうらなひの裁令

三江

けしうらなひの裁令

五溪

今うらなひの裁令

木洲

きくちうらなひの裁令

鼠十

姉まうとて温純とてわらわ

壽山

善清如水金ハケハ地を

浦舟

本うらなひの裁令

炉扇

降うらなひの裁令

如今

致とてわらわの裁令

時習

富者うらなひの裁令

五経

玉糊り奥を潤くこと切

蘇子

折戸のうらなひの裁令

東潮

空のまはしとて入るる月の光
 奏推
 たくめはれぬ空層の雲の滅
 蝸律
 まるく天窓ぬけさなる月
 射石
 接ひけりし雨の跡の心
 飛泉
 古地と多りさるる月の心
 芦夕
 風鈴のまはしなる月の心
 楨夕

芭蕉翁半百年譚 香語

和曲聲罷半百年 文墓蕭索鎖寒煙
 幸今有聳門人耳 葉落芭蕉彈沒絃

以夫

翁也 詞藻妙不巧 風流遠流芳

惟時正當半百年之遠譚 詞藻之末
 葉追慕蕉翁奇言感物之恩就當山

あや年数く珠のあきくふ 素竹

あゆやたふくふくろの竹 楨夕

あやもあをよのせくもあ 大口 麥推

あやふくふくくはくはくはく 文器

あやふくふくくはくはくはく 緝柳

あやふくふくくはくはくはく 寄山

あやふくふくくはくはくはく 女 布及

あやふくふくくはくはくはく

あやふくふくくはくはくはく 川車

投子一紙の大睡を蕉門の伝

京

あやふくふくくはくはくはく 五径

あやふくふくくはくはくはく 雪江

あやふくふくくはくはくはく 時智

あやふくふくくはくはくはく 鳥諾

あやふくふくくはくはくはく 鼠十

あやふくふくくはくはくはく 芦地

望まぬ人海の中なる花枝の影 両花

よりの海へ舟をこぎし人の影の如く 停車

うつらうつらと寝て居る人の影の如く 炉底

誰かの人よ白き衣を着たはる 鴨律

蛙よ水の中を泳ぎしはる 射石

さしつかへなく 飛泉

月影の移るや 已有

雲の移るや 扇雪

春を移る 凡五

月影を移る 二江

竹影を移る 扇士

かき草の影りて経一はたの秋出ると
さしつかへなくの影を移るはるの影
かき草の影りて

一 膝をかき草の影を移る 木淵

さしつかへなくの影を移る 茶寮

よりの海へ舟をこぎし人の影 悦峯

蛙よ水の中を泳ぎしはる 芦洲

遠志

雲不似水木亭冷遠枯尾じ 棠畦
 庭々々々枯野のささげ草の心 湖香
 あり枯るの影のささげ草の心 光石
 あり枯るの影のささげ草の心 香柚序
 一膳水そのをたぐく舟舟外航 道吟
 跡は舟舟枯野のささげ草の心 孤舟
 つらふ舟舟のささげ草の心 葛石

藤子又塚の岷岷をあらん 松珪
 初霜のささげ草の心 子福
 本枯る道行の舟舟外航 柳岸
 海乃果山乃舟舟のささげ草の心 州里
 大十一年の舟舟のささげ草の心 月桃

藤の子をあらん 岷岷の
 色をあらん 舟舟の

志々々々舟舟のささげ草の心

菱波

上人のあけ湖の色甚良 云 櫻行

水影の夕 方り 晴れの境 日 社吾

月まじりて ハ口邊赤も他の
牛の酒さうい色なきは
三石松金三ツリありあり
夕庭乃柳 清き風を

餅の赤い山 まじりて 信 在 日 二日

當國到來

雨の枝路 素名 今 同 夏 同 女 同 山

折 山田 の 同 花 同 赤 同 山 同 玉 同 糸 同 帆 同 十

揚 同 子 同 の 同 音 同 や 同 人 同 古 同 郎 同 家 同 兔 同 士

又 同 陽 同 子 同 の 同 心 同 の 同 心 同 一 同 々 同 畔 同 古

柳園とて信のせしめし、氣の
たりの社をさし

か 四日市 り 玉之 ら 之 下 之 ち 之 折 之 路 之 水

このふよびゆりつる上録一扣 久居 桃溪

何となく年々や筒の枯尾ふ 同 鼓嵐

こゝ又振ふふまうと区てゝゝ人との懐ゆと島あけゝゝ

数回り破りゆり 山田 杜菱

あー年々のろろた十折 同 素直

左がみまのまをともおまねまゝのりゝゝ

ととと持ぬ思や寂と小六有 兼名 枝山

塚ろののゝ所やあゝ袖ゆ也 同 八調

こゝちあふ拾ふ持や何も有 川崎 梅路

ゆりりりあや年々るゝしは 同 曾夫

ちまみれ跡るゝりそりゆふ 同 入楚

又わづれ塚のこらひりま 同 秋至

おはるゝんやゝ運のゝあ時 同 州司

諸国文通

揚子江の舟の雨 近江 角上

舟の雨 江戸 園弁

舟の雨 尾津 芝葉

舟の雨 大坂 百川

舟の雨 日 師冬

舟の雨 日 攪十

舟の雨 赤 徳弘

舟の雨 日 杜谷

石碑 イシノエ 一推

舟の雨 天保 半急

舟の雨 日 露秀

舟の雨 日 史前

舟の雨 日 為六

舟の雨 日 東李

舟の雨 舟の雨

舟の雨 出羽 吐雲

可上塔母わらふと云ておくれは
の流るはくまのい流のまゝ

尾法 参士
加賀 希因



跋

道意翁没後五十霜矣誰訴錯
等閑興已被一世人知愛而追
慕遺凡完賞吟筆卷斗空雷其
力入干氷欽望作骨共展如能
自躡二り坊一日懐書來而示
全文塚集句此屋冥冥之章也
是詩後之凡嗚呼人其感於夏

別必動性情而後興發嗟嘆發於
 心之流成行動何異聞道者當吐
 舌也之句而把卷之象其必矣涉的
 有知之用必後何為其少河都
 一見平然若之之意蓋以名之令終釋
 其幾人乎今時學道者其效其皆
 自別之使雖少以術大其諾之
 培修心柳亭之跋 中時夏月

龍會 亥 亥 初冬

寓洞津上浦教人蘆夕叟



延享元甲子十月日

京寺町二條

搦屋治兵衛板

加
三

録

十
録

